

スッポン鍋の湯気

グツグツと湯気が立つ鍋。この日の亭主役が自らよそつてくれたスッポンに「こんなにうまいものなのか」と座の一同がうなりました。恥ずかしながら、私は生まれて初めての経験。地元の特産となることを夢見て商品化された「魚沼スッポン」。起業から2年、五十沢地区で温泉を活用して育てられてきました。餌には地酒の酒粕も。「初出荷にこぎ着けたら誰よりも先に、松井さんと市長に食べてもらいます」と言ってくれていたのが亭主役の井口陸弥さんで、2月22日、約東通り待望の試食会となったのです。

「松井さん」とは、当市出身で株式会社アルプス技研の創業者最高顧問の松井利夫さん。「起業家が生まれなければ地域は衰退する」という信念のもと、故郷のために多額のご寄付をされ、市はそれを活用して六日町駅構内に「事業創発拠点」を整備し、起業の登竜門「チャレンジ南魚沼」制度を創設しました。2年前の第1回選考会で選ばれた5人は全員が起業

し、新社長が誕生。そのうちの1人が井口さんでした。

3回目となる今年も女性を含む十数人の応募があり、3月末に新たに5人の事業を採択。市は起業着手に応援資金として百万円を助成し、今後、事業が軌道に乗るまでさまざまな伴走支援を続けます。

舌鼓を打ちながら、第1期生の晴れやかな姿を松井さんは本当に喜んでおられた。「よくなってきたね、市長」とささやかれた。数年前には想像すらできなかった新しい変化を、私も確信しています。

「魚沼スッポン」は、すぐに鍋などで調理できるように小分け梱包で出荷するそうで、旅館やホテル、飲食店で振る舞われ、魚沼の特産になったら本当にすばらしい。そして家庭でも。鍋を囲み、若い起業家たちのがんばりを、例えばお父さんやお母さんが、子どもたちに話をしてあげてほしい。その小さな所作が、次代の子どもたちの故郷への肯定感や誇りを育てていくのではないか。湯気の向こうが明るくなるような。

シリーズ 第120回

国際大学留学生

お国自慢コーナー ~ boast of my country ~

トンガ王国 ヴェロニカ フェアウモエロット ヘイムリさん



私の国はこんなところ

トンガは、太平洋諸島のポリネシアに位置する国です。クジラを見たり一緒に泳いだりすることに興味があれば、ぜひトンガに来てください。サーフィンやシュノーケリングなどのマリニアクティビティも充実しています。古代遺跡ハアモンガの王宮や王家の墓など、歴史観光もできます。代表的な料理は、ココナツミルクで味付けした肉をタロイモの葉で包んで蒸した「ルー」、生のマグロ料理「オタイカ」などがあります。主食は芋類です。バナナ、パイナップル、マンゴーなど新鮮な果物や野菜もたくさんあります。

南魚沼市に住んで感じたこと

南魚沼はトンガのようにとっても静かで、のんびりとした田舎街です。そば、うどん、すし、うなぎ、おでん、みそ汁など日本の料理はどれもおいしいです。なかでも、ふぐは最高においしかったです。小学校訪問、神社や自然の探索、温泉でリラックしたこともいい思い出です。この冬は、初めてスノーボードに挑戦しようと思っています。トンガには雪がないので、雪国生活は新鮮で、とても楽しいです。南魚沼が大好きです。



編集後記

4月になり、新年度が始まりました。例年よりも早い雪解けで春を感じるとともに、3月13日からマスクの着用は個人の判断となり、長く続いたコロナ禍からも春の訪れを実感しています。気持ち新たにさまざまなことに取り組みたいです。(M. A)

今月の表紙

3月11日(出)、市内の三国街道塩沢宿「牧之通り」で、一般社団法人 雪国青年会議所主催による「雪国らんたん」が開催され、およそ200基のスカイランタンが打ち上げられました。願いが込められたランタンのあたたかな光が夜空を彩り、幻想的な空間となった会場では、訪れた人の笑顔があふれていました。

市民の動き 令和5年2月末日現在 ()は対前月比

●人口 53,908人(-30) / 男26,392人(-15) 女27,516人(-15) ●世帯数 20,278戸(+14)